

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	○広島大学、広島経済大学
整理番号	B6
事 業 名	CLMV 諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人財育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
コメント 本事業は、広島大学及び広島経済大学が、カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム（CLMV）諸国の大学と連携して、日本人学生の派遣・CLMV 諸国学生の受入を行い、CLMV 諸国の社会インフラ整備に貢献する「研究力」と「社会起業力」を兼ね備えた「人財」の育成を目指し実施された事業である。 事業展開では、SDGs 関連の教育科目の英語による開講を充実させた上で、日本人学生をCLMV 諸国でのインターンシップに派遣し、また、CLMV 諸国の学生を受け入れて、「国際課題研究」として複数の教員による丁寧な研究指導を行った。更に、実現性の高い政策やビジネス企画等を立案する国際合同セミナー「PEACE-SDGs アイディア発掘型学生セミナー」を開催する等、多様な教育コンテンツが展開された。こうした取組の基盤として、全国で初めてカンボジア教育省・ミャンマー教育省高等教育局と学術交流・協力協定を締結し、海外拠点を開設していること、アジア・太平洋大学交流機構単位互換制度に基づく単位互換や成績管理のシステムを構築していること、新たに BEVI を留学効果測定ツールとして導入し、プログラム評価に活用していることも、大学間交流の質保証の観点から高く評価できる。また、コロナ禍以前から、事前・事後研修にオンラインでの現地学生との協働教育を導入し、2020 年度には、オンライン上で海外大学の教員・学生と交流・ディスカッションを行う「e-START プログラム」を新設し、7 コースで 61 名の学生が参加したことは、今後の更なる展開が期待できる。 一方で、中間評価時において「学生の派遣・受入数の拡充と質的充実への努力が望まれる」との指摘を受け、プログラムの内容の見直し、受入体制の柔軟化、短期研修の単位化、留学啓発教育の実施といった対策が講じられたが、結果として目標値の達成には及んでいない。また、広島経済大学からの学生派遣や広島大学・広島経済大学の国内連携による教育プログラムの充実を推進するよう中間評価時に指摘を受けているものの、広島経済大学からの学生派遣はごく少数に留まっており、国内大学間の連携強化に向けて今後一層の検討が必要である。今後、CLMV 諸国の連携大学を絞り戦略的に学生交流を拡大することを検討する等、更なる工夫が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	